美しいやまぐちづくり』考　山口県景観アドバイザー　山根　満広

長門で生まれ育った私は、何より海が好きで、ヨットに釣りにと休日はほとんど海で過ごしています。この北長門の海の素晴らしさをもっとたくさんの人々に知ってもらいたくて、毎年「海の日」に青海島一周のヨットレースと、子どもたちには「海の達人」と題して波打ち際の遊びを教える「長門ヨットフェスタ」を開催して１２年が経ちます。沖から眺める長門のまちは海と山が織りなす自然景観の素晴らしさはもちろんですが、とりわけ海にせり出してくる仙崎の家並みには昔から連綿と続いてきた人々の生活が感じられます。山陰には珍しい鈍色で高さの揃った瓦屋根が広がり、その中でひときわ目立つ寺院の屋根は、沖から見るとランドマークになっています。おそらく港に戻る漁師にとって、この大屋根を見つけたときが一番ほっとする瞬間ではないでしょうか。

今ではこの景色に高層の建物、派手な看板、防波堤、テトラポット、山を縦断する鉄塔が加わりました。また、金子みすゞが「あまりかわいい島だから、ここには惜しい島だから、貰ってゆくよ綱つけて。」と記している「弁天島」も人工島とひと続きになってしまいずいぶん変容してしまいました。

地域の経済活動と景観との調和を、もっと身近な問題として住民が考える時期が来ていると痛感しています。